

時が全て消し去る

存在した足跡は
生きたこともあったことも
何故かを 知ることもなく
全てが 消えて存在がない

全てが生きたことあったこと
何故かを知ることもなく
消えて無くなる

永遠なる 持続は許されず
ただただ 今だけが 永続する
絶えず 今だけが 現れ
今だけが 在り続ける

2019/ End Road-16

悲しみに影が寄り添う

影に寄り添われて
暗闇の漂いの中を
路を月が照らしている

道化のように 街灯に
影が左右に戯れおどけ
寂しさを暗闇へ消そうと

歩きの吸う息を
歩きの吐く息を
影が優しく抱いている

星々の響きを
月が地上へと照らし
輝きを煌めかせ

時が全てを消して
歩きの路先が
永久の中へと見えない

2019/ End Road-15

朝日に輝る路

Chore's(vocall)
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi
dona eis requiem. sempiternam.

小鳥の声が朝の気を割き
そよ風に木の葉が揺れ

眩い光が射し込んで
私の歩く先の道

.....この道を歩き続け
始めと終わりのある道を
時の過ぎる中で
まだ終わりは見えない

.....この時に現れ
この時を歩き続け
愛と悲しみと寂しさを
歩きはこの時へと消える

Sol's(vocall)
You,.....let me die?
let me die?
In.....on this road!

2019/ End Road-14

暗闇の路

北風が走り吹き去り
月の明かりに
落ち葉が音をたてながら
風の路を空けている

星々の瞬きが
七十幾何年も歩き続けている
私を慰めている
生命の息吹を癒している

私も同じだと 言っている
それでも生きる！
無言で生きの輝きを
消えるまで灯して

2019/ End Road-13

その Africa plateau に
地上で初の Savanna が出現し
森に住んでいた類人猿は
Savanna へと
生活圏を移す冒険をした

彼らを猿人と呼び
彼らこそヒト進化の原点となった
彼らは Savanna で二本脚で立った
Ardipithecus であり
Lucy (Australopithecus) である

今から百九十万年前以後に
地球は地軸が二十二度近似値に傾き
大地は氷河時代へと入っていた
Savanna に出た類人猿は
Homo habilis の出現を見る

大地 (Earth) —03/13—
今から四百万年以上前
Laureasia へ
Africa へ Eurasia の
結合が進んでいた

彼らは石器を使い
彼らは集団生活を成し
彼らは一種の住まいを持った

Homo habilis の脳は
猿人や他の類人類よりも進化し

Homo habilis は
脳臓器増加ゆえに
子供を未熟児で出産し
それ故にこの期に
男性と女性の仕事分業が成された
それ故にこの期に
一夫一妻制が確立した

Ardipithecus も
Lucy (Australopithecus) も
Homo habilis も
Savanna を出ることも無く
その三千キロに及ぶ
Great Rift Valley に留まっていた

この Savanna から最初に
Eurasia へと拡散したのは

約百万年前に出現した

Pithecanthropus Erectus びあぬ

Pithecanthropus Erectus は

初めて火を使った

彼らは幾度となく

Great Rift Valley Eurasia へ

Europe へと拡散を成した

Ardipithecus も

Lucy(*Australopithecus*) も

Homo habilis も

この大地へと拡散していった

Homo erectus も

But!..... 過去に絶滅消えていった

初めてこの大地を克服しなした

ヒト進化は単独ではなし得ず

地球共存系の一員として成してきた

私たち新人も

この拘束からは開放はない

だからこそ

大地を克服した新人であっても

ヒト中心主義的な環境利用が

共存系の崩壊を意味したとき

ヒトの存在も危険になってくる

神よ 私たちは

ここにおいて地球共存系という

歴史的拘束からヒトを解放し

宇宙へと拡散していくことを

見守り下さい

宇宙へと拡散のレールを走っている

.....



.....

End All.

その昔

ヒト属は大地溝帯から拡散しては

絶滅し

幾度とヒト類の絶滅を繰り返し

今全地球を克服したヒト進化は

今日の世界各国に生きている

現世人類の共通祖先の「新人」が

今から二十万年前

東アフリカ大地溝帯に新に出現し